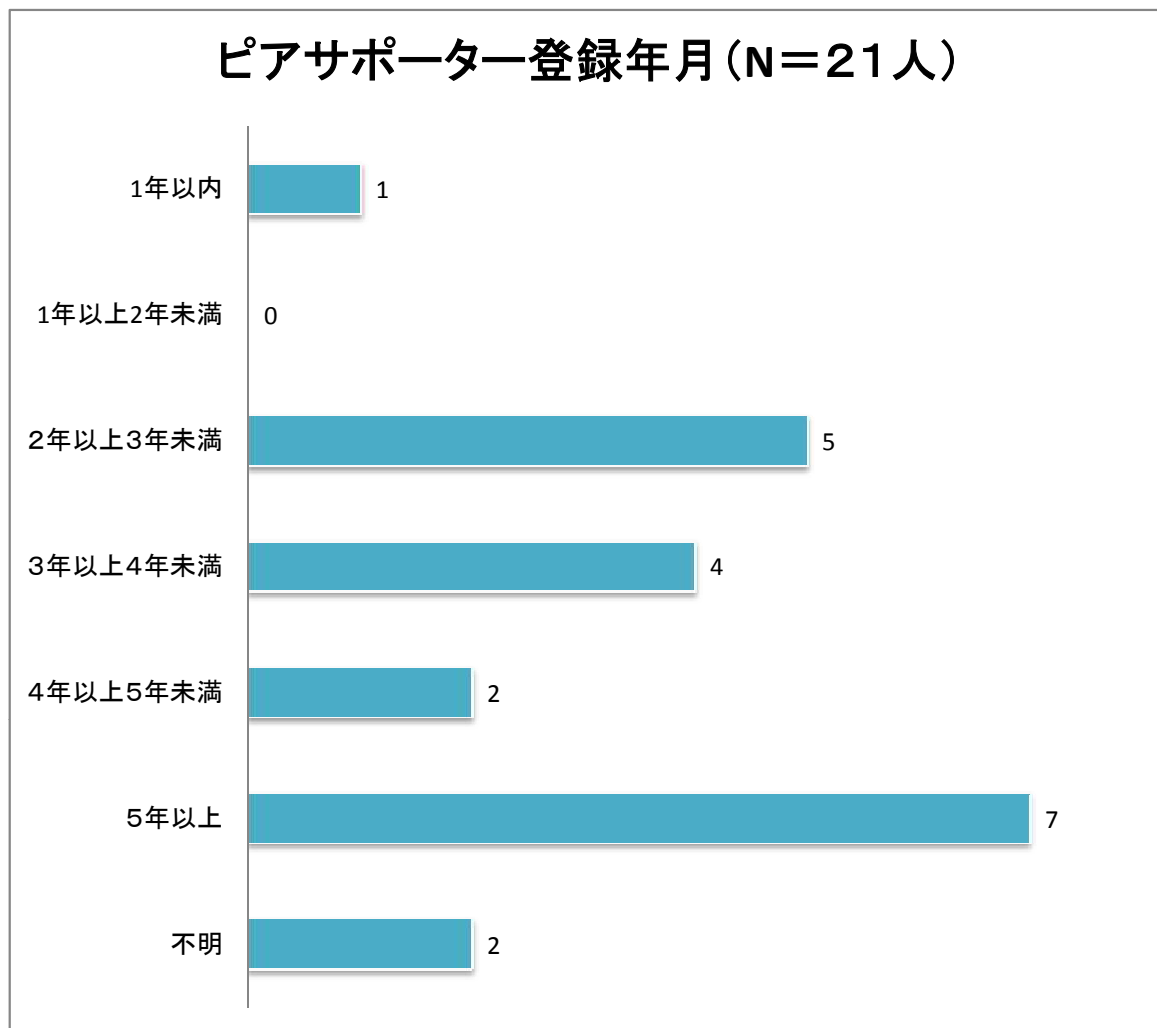


Ⅱ ピアサポーター（アンケート）調査

Q1 ピアサポーターとして登録をしてから何年何ヶ月経過しましたか。

N=21人

| 1年以内 | 1年以上2年未満 | 2年以上3年未満 | 3年以上4年未満 | 4年以上5年未満 | 5年以上 | 不明 |
|------|----------|----------|----------|----------|------|----|
| 1 | 0 | 5 | 4 | 2 | 7 | 2 |

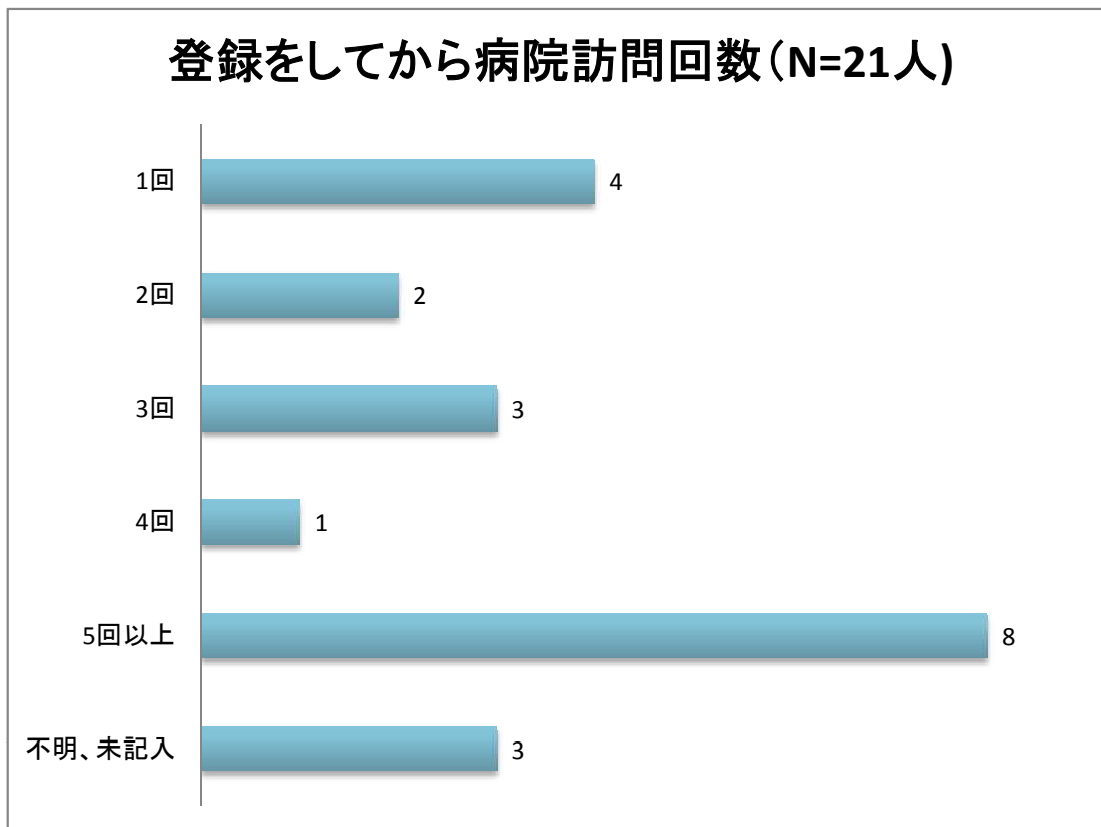


ピアサポーター登録年数は5年以上（33%）が最も多く、次いで2年以上3年未満（24%）、3年以上4年未満（19%）、4年以上5年未満（10%）、1年以内（5%）と続いた。

Q2 登録をしてから病院訪問は何回いきましたか。

N=21人

| 1回 | 2回 | 3回 | 4回 | 5回以上 | 不明、未記入 |
|----|----|----|----|------|--------|
| 4 | 2 | 3 | 1 | 8 | 3 |



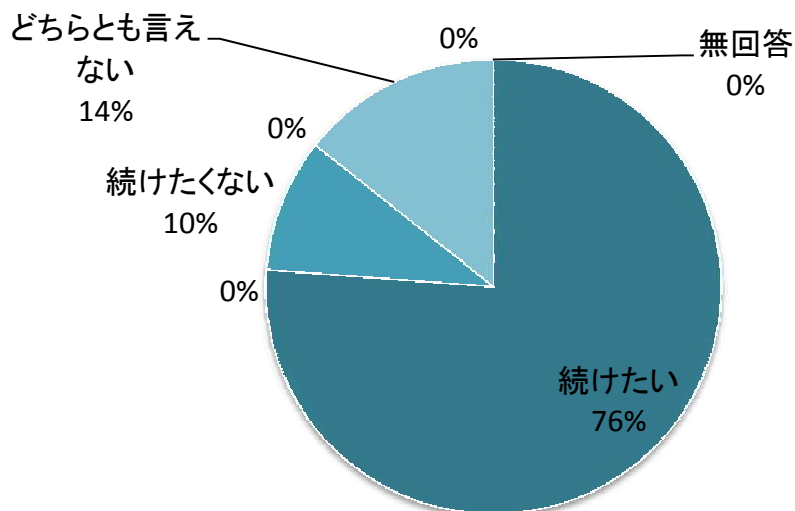
登録してからの病院訪問回数は5回以上（38％）と最も多く、次いで1回（19％）と続き、以降は、3回（14％）、2回（10％）、4回（5％）で、不明、未記入は14％であった。

Q3 今後の病院訪問についてあなたの考えに近いものは何ですか。

N=21人

| 続けたい | 続けたくない | どちらとも言えない | 無回答 |
|------|--------|-----------|-----|
| 16 | 2 | 3 | 0 |

今後の病院訪問実施の希望 (N=21人)



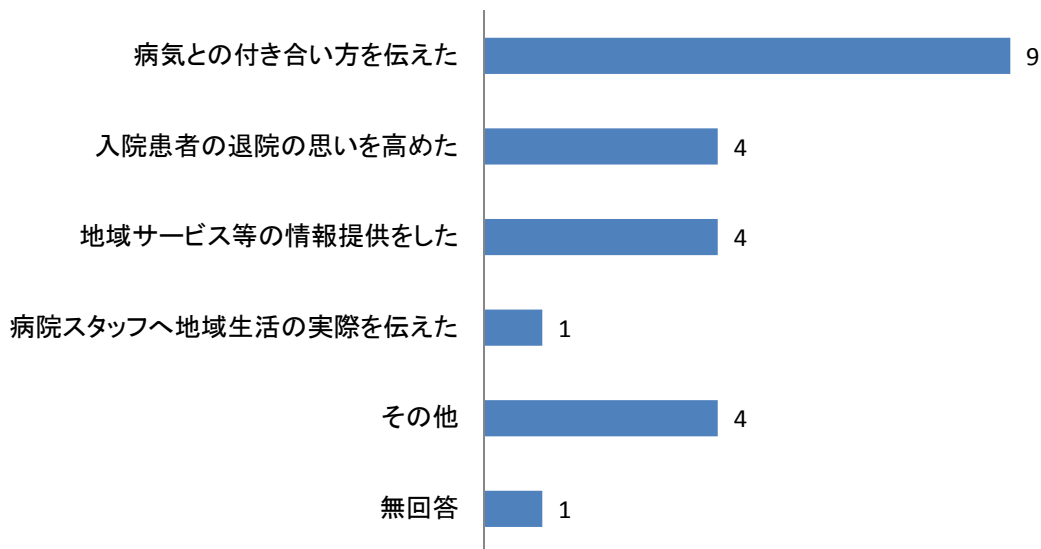
今後の病院訪問実施については「続けたい」(76%)で、次いで「どちらとも言えない」(14%)で続き、「続けたくない」は(10%)であった。

Q4 あなたが病院訪問をして一番達成できたと思うことは何ですか。(1つだけ)

| 地域サービス等の情報提供をした | 病院スタッフへ地域生活の実際を伝えた | 入院患者の退院の思いを高めた | 病気との付き合い方を伝えた | その他 | 無回答 |
|-----------------|--------------------|----------------|---------------|-----|-----|
| 4 | 1 | 4 | 9 | 4 | 1 |

N=23件
(回答者数21人)
過回答有

病院訪問をして一番達成できたこと(N=23件)



病院訪問をして一番達成できたことは、「病気との付き合い方を伝えた」と回答したピアサポーターが43%と最多で、次いで、「入院患者の退院の思いを高めた」、「地域サービス等の情報を提供した」、「その他」が19%で同じ回答数で、「病院スタッフへ地域生活の実際を伝えた」は回答数は5%であった。

その他

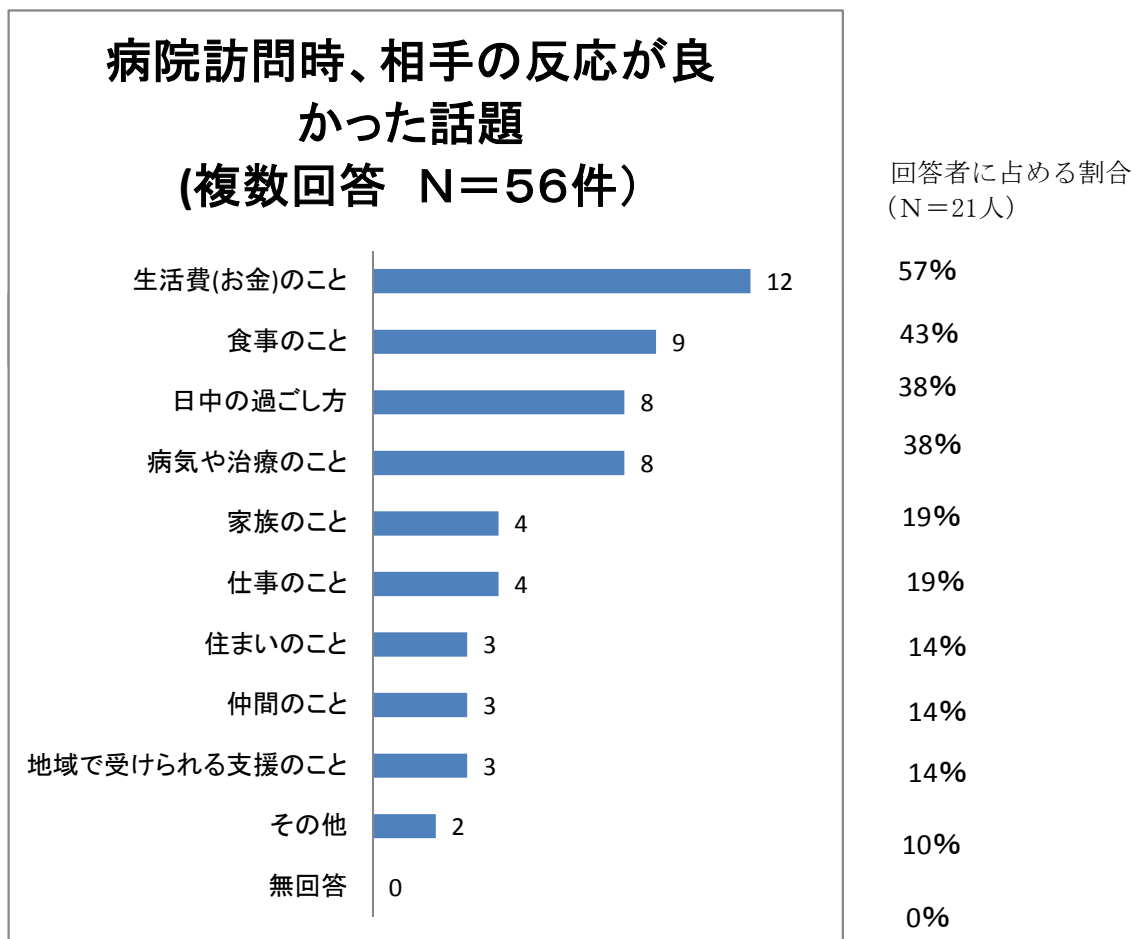
- ・自分自身の整理ができた。
- ・地域の風を病棟に送り込むことができた。

Q5 あなたが病院訪問をしたときに、聞いている相手の反応が良かった話題について、あてはまるものは何ですか。(3つ)

| | | | | | | | |
|--------|-------|---------|-------|-------|-------|---------------|----------|
| 住まいのこと | 食事のこと | 日中の過ごし方 | 仲間のこと | 家族のこと | 仕事のこと | 地域で受けられる支援のこと | 病気や治療のこと |
| 3 | 9 | 8 | 3 | 4 | 4 | 3 | 8 |

N=56件 (回答者数21人)

| | | |
|------------|-----|-----|
| 生活費(お金)のこと | その他 | 無回答 |
| 12 | 2 | 0 |



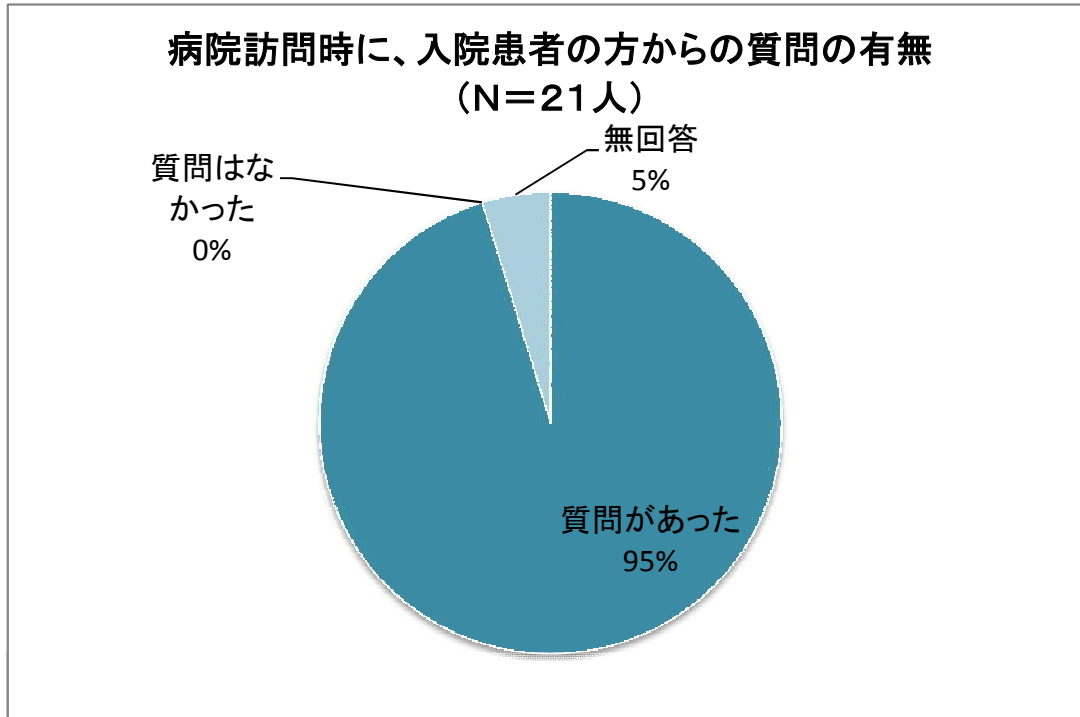
病院訪問をして聞いている相手の反応が良かった話題は、「生活費(お金)のこと」が最多の(57%)で、次いで「食事のこと」(43%)となり、その後は「日中の過ごし方」、「病気や治療のこと」が同じ(38%)で続いた。「地域で受けられる支援のこと」は(14%)の回答数であった。

その他 夜眠れない時はどうするか

Q6 あなたが病院訪問した時に、話を聞いた入院患者の方から質問がありましたか。

N=21人

| 質問があった | 質問はなかった | 無回答 |
|--------|---------|-----|
| 20 | 0 | 1 |



病院訪問時の入院患者の方からの質問の有無については、「質問があった」(95%)が最多で、「質問はなかった」(0%)で、「無回答」(5%)であった。

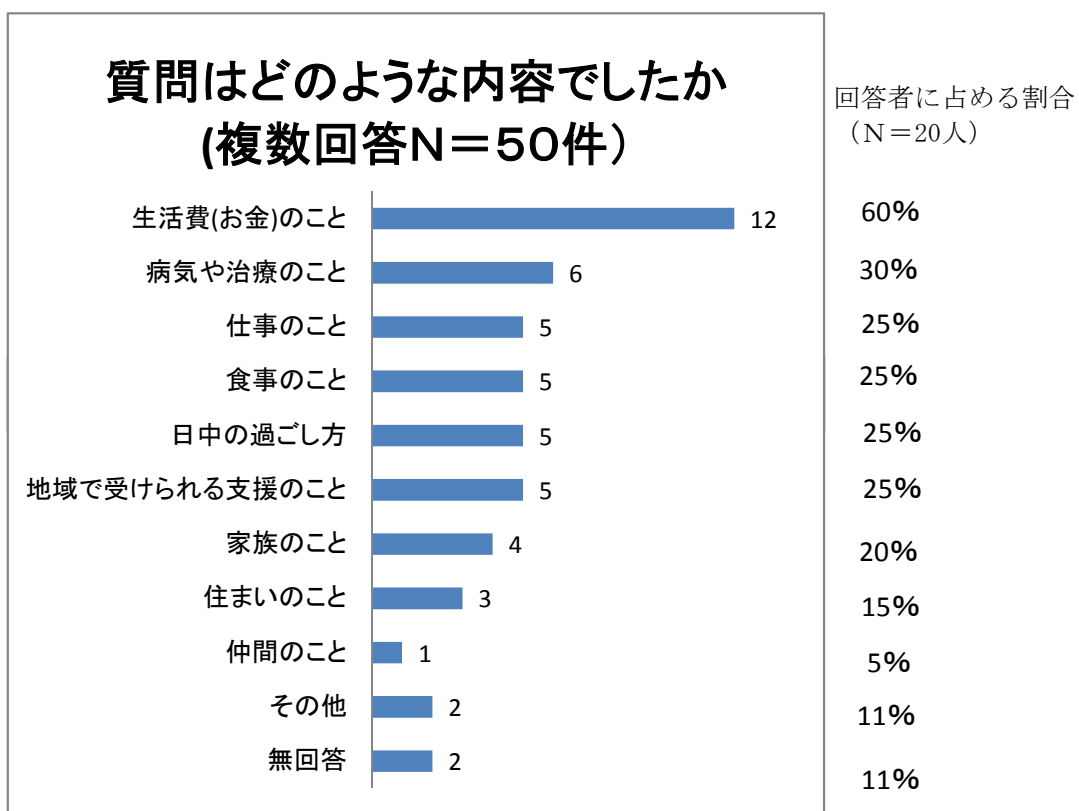
Q7 Q6で「1質問があった」と回答した方にお尋ねします。質問はどのような内容でしたか。(3つ)

| | | | | | | | |
|--------|-------|---------|-------|-------|-------|---------------|----------|
| 住まいのこと | 食事のこと | 日中の過ごし方 | 仲間のこと | 家族のこと | 仕事のこと | 地域で受けられる支援のこと | 病気や治療のこと |
| 3 | 5 | 5 | 1 | 4 | 5 | 5 | 6 |

N=50件 (回答者20人)

| | | |
|------------|-----|-----|
| 生活費(お金)のこと | その他 | 無回答 |
| 12 | 2 | 2 |

N=50件(質問があったと答えた方20人)



病院訪問をした際にピアサポーターが受けた質問の内容については、「生活費(お金)のこと」が最多(60%)で、次いで「病気や治療のこと」(30%)と続き、「仕事のこと」、「食事のこと」、「日中の過ごし方」、「地域で受けられる支援のこと」は同数の(25%)であった。

その他 病気に立ち向かう姿勢、ハンドルネームのこと

Q8 体験発表をしてあなた自身が思うことをお書きください。

【良かったこと、工夫したこと】

<ピアサポーターの準備・工夫>

- ・ A 4 用紙に内容をまとめて発表したこと。
- ・ 声を大きくだし、言葉に強弱をつけたこと。
- ・ 素直な気持ちで発表した。
- ・ 工夫したことは、辛いことや困っていることなど素直に話せた事です。
- ・ 楽しく発表すること。
- ・ 退院できるように楽しいことを話した。
- ・ 入院している患者さんのレベルに合った話をするように心がけた。
- ・ まずはみなさんと仲良くコミュニケーションが出来たか？ということ。
- ・ 普段どのように生活しているか具体的に話すようにした。
- ・ なるべく患者さんの意見を拾い上げようとした。
- ・ わかりやすい言葉を心がけ、目を合わせて話すことができた。
- ・ 「生活リズム」「食生活」など細かいテーマを決めて、実施していること。
- ・ 途中で休けい等を入れるとよいと思います（体操など）。ゆっくり話すといいと思う。

<病院訪問活動の対象者>

- ・ もっといろいろな人にこの病気の事を知ってもらいたい。

<伝えたい内容>

- ・ 過去の入院体験
- ・ 退院促進に力を入れて話せばよかった。
- ・ お金が少ない中でどうやっているか。
- ・ 外に出ても大丈夫だよ、と伝えられたと思う。
- ・ 共感を得れた。精神疾患のプラスの部分伝えられた。
- ・ 病棟スタッフに向けた話だったので、退院後の当事者の実際を知ってもらえるような話にした。（失敗談等も含めて）

<自分自身について>

- ・ 自分の心境も整理に役立った。
- ・ 原稿を書くことにより自分自身の整理ができて良かった。
- ・ 自分の体験を発表することで、自分自身を振り返るいい機会になった。

<その他>

- ・患者さんが笑顔で話してくれたことが良かった。

【もっとこうすれば良かったこと】

<ピアサポーターの準備・工夫>

- ・事前に質問を集めておけばよかった。
- ・質問箱をもっとうまく活用できなかったかと悔やまれる。
- ・あらかじめどんなテーマで話を聴きたいか打ち合わせを細やかにしたかった。
- ・もっと質問が出来るように仕切りたかった。
- ・患者さん目線に立って物事を言えば良かったです。
- ・何か1つでも覚えておいてもらえるような工夫をしたかった。
- ・もっと適切なことを簡けつに言えたら良かったと思う。
- ・職員の方に伝わる話をすればよかった。
- ・病棟スタッフ側の話も、もう少しきけると良かったと思う。
- ・もっといろんな話をしたかった。
- ・お金がない、労力も出せない中でどうやったらいいのか、もう少し具体的に伝えて言えることを言えばよかった。
- ・機関誌などを作りたかったのに、できなかったのが残念。

<病院訪問活動の対象者>

- ・入院患者だけを対象にしてほしい。退院されてデイケアに通っている人は病院訪問に参加してほしくない。

<伝えたい内容>

- ・グループホームでの生活をもっと話せば良かった。
- ・もう少し、住まいのことを話せば良かった。
- ・普段の生活について話せばよかった。

<自分自身について>

- ・経験不足で発言できなかったこと。
- ・リラックスする。

<その他>

- ・病状の重い患者さんにはどうい話をすればいいのかわからない。

Q9 訪問を受け入れる病院にお願いしたいこと、配慮して欲しいことがありましたらお書きください。

<スタッフとの準備・工夫>

- ・病院訪問に際して、目的についての確認。（今回はできました）
- ・事前の打ち合わせ
- ・質問内容を大体は決めておいて欲しい。

<ピアサポーターへの配慮>

- ・リラックスして話せるよう、心くばりをお願いしたい。
- ・ピアサポーターも精神の障害を持っているのでその点を理解して頂きたいです。
- ・ピアサポーターも当事者
- ・きちんと配慮してもらってます。

<障害の理解>

- ・もっと障害者の事を分かってほしい。
- ・もう少し患者さんの意見を受け入れて欲しい。（意見とは、退院したい気持ちをもっと聞いて欲しい。）
- ・退院したくない社会（病院以外）はこわいイメージをもっている人がいる。体験発表する場合は患者を刺激しないような話をしてほしい。事前に話す内容を確認してほしい。

<発表の場・頻度>

- ・定期的に訪問できる体制整備

<研修・普及啓発の必要性>

- ・入院患者さんにこだわらずに、職員研修などにも協力したい。
- ・まずは病院スタッフさんとコミュニケーションを取りたい。

<フィードバック>

- ・自分たちも当事者なので言い過ぎたりしたことを教えてほしい。
- ・訪問後のフィードバック
- ・終了後に振り返りの時間を用意してくれていて、とてもよい。情報交換、次回への準備になる。

<その他>

- ・精神疾患のプラスの部分伝えるために個人的に得意なことをお見せしたい。
- ・患者さんだけでなくスタッフさんもおきがるに質問などどうぞ。

Q10 その他、地域移行・地域定着支援事業全般に関するご意見をご自由にお書きください。

<事業運営>

- ・事業の継続を希望します。
- ・人がもっと増えてほしい。わたしたちも当事者なので思うようにうごけない。
- ・お金の額を減らさないでほしい。
- ・国の制度が安定していなくて、どのように続いていくかわからず、職員さんの支援・経済的な支援をどこまで受けられるか不安です。
- ・少しでいいので予算の立てなおしをおねがいします。エネルギーを大変つかうので。
- ・病院訪問はピアサポーターのモチベーション以上に病院・事業所の事情・都合に左右されるので風通しよく体制を整えてほしい(予算や余裕など)。
- ・「ピアだからできること」という強みを活かすのはどんな事業かというのを当事者をまじえてもっと模索していく必要がある。
- ・新しい年度になる度に、従事者からピアサポーターに制度の説明をしていただきたいです。

<ピアサポーターの準備・工夫>

- ・活動地域によって、病院訪問活動等内容に差があるが、その地域に必要な形の活動ができれば良いと思う。
- ・年金のこと
- ・個人的な悩みに対応したいと思う。
- ・退院のみを目的とするのではなく、退院後イメージできるように事業に力を入れるべきではないかと思う。

<病院への要望等>

- ・退院させても地域定着はできない、難しいです。衣食住(が大事)、レンジの使い方、洗濯機の使い方、炊飯器の使い方など、生活訓練をさせてから家族の元へかえして下さい。外泊を数回させて退院では家族が疲れます。1週間外泊させて日常生活が一人でできたら退院させ地域定着させて下さい。

<発表の場・頻度>

- ・もっと発表をする場が欲しい。
- ・ピアサポーターを多くの人に知っていただきたいので、発表の場があるといい。作業所でピアサポーターが動けるとよいと思う。

<研修・普及啓発の必要性>

- ・ 病院スタッフが、この事業を知らない人も多いので、スタッフに向けても周知の必要性を感じた。スタッフが知らなければ、この事業が必要な患者側にもおりにこないと思うので。
- ・ 事業自体がまだ当事者とながっていない現実があるので、周りに広げる必要があると思います。例えば、病院などに資料等を送付して検討してもらうなど。

<その他>

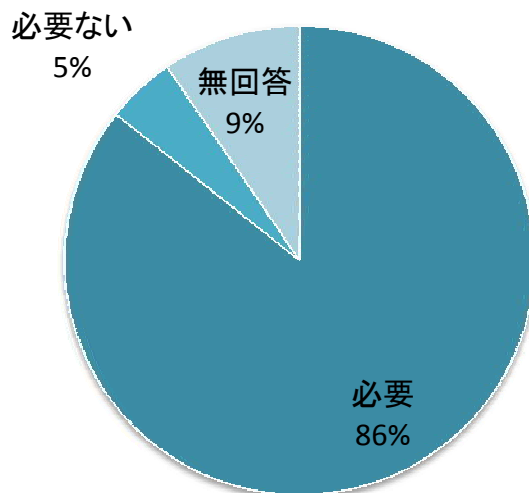
- ・ 患者さんたちとの交流がもっとあればいいと思う。
- ・ いろいろと説明してくれるのでありがたい。

Q11 あなたは、「ピアサポーターによる病院訪問」以外にピアサポーターの活動をする必要があると思いますか。

N=21人

| 必要 | 必要ない | 無回答 |
|----|------|-----|
| 18 | 1 | 2 |

「ピアサポーターによる病院訪問」以外にピアサポーターの活動をする事(N=21人)



事業によるピアサポーターの病院訪問以外にピアサポーターの活動が必要の有無については、「必要」が18人（86%）、「必要ない」が1人（5%）で、無回答は2人（9%）であった。

Q12 現在、あなたが、「ピアサポーターによる病院訪問」以外に取り組んでいる、ピアサポーター活動がありましたら、以下にご自由にお書きください。

<ピアサポーター同士の交流>

- ・ピアサポーター定例会

<当事者会の運営>

- ・語り合い、フリースペース運営。
- ・当事者会「やまとまと」という会の主催をしています。
- ・ピア相談

<当事者支援>

- ・デイケア中に当事者の相談にのる。
- ・ピアの家庭訪問。安否確認。話し相手（ピアの家族を含む）。

<研修・普及啓発>

- ・体験発表
- ・講演活動
- ・地域連絡会議への参加
- ・職員向け研修等での体験発表
- ・保健所での講演も良かった。
- ・学校の先生向けに、病気と住まい、仕事について話した。
- ・認定調査員向けに、病気と住まい、仕事について話した。
- ・病院へ講義に行ってます。
- ・足柄上保健福祉事務所からの依頼が有り、「当事者の声から～」で発表しました。
- ・ピア相談、ピアによる病院スタッフや家族などのために当事者の気持ちを話すこと。
- ・普及啓発「地域での体験発表—家族、当事者、民生委員等—、大学での看護師、PSW(精神科ソーシャルワーカー)を目指す学生たちへの講義、従事者、行政の人向けの研修」、デイケア見学、相互見学などによる勉強会・交流会。
- ・普及啓発

<家族への障害の理解促進>

- ・家族教室への参加
- ・障害の両親に話を聞いてもらえたのが良かった。
- ・家族向けに、病気と住まい、仕事について話した。

Q13 「ピアサポーターによる病院訪問」以外で、あなたが、今後必要と思われるピアサポーター活動は何ですか。以下に自由にお書きください。

<ピアサポーター同士の交流>

- ・ピアサポーター同士の交流
- ・ピア同志の悩みなどを聞いて、皆で話し合っって良い方向に解決出来たら良いと思っております。

<対象者の多様化>

- ・当事者にピアサポーターを知って欲しい。
- ・障害者にかかわっている人達に話を聞いてもらいたい。
- ・福祉関係や医療従事者になるための勉強している学生対象に話をする必要性を感じています。

<研修・普及啓発>

- ・学校や一般向けの出前講座など
- ・自立支援協議会への出席(謝礼または交通費支給)
- ・障がいをかかえる人を友に持つ人向けの講演
- ・冊子、書籍などの出版事業
- ・もっと世間の事を教えたい。
- ・デイケア中に当事者の相談にのる。
- ・一般の市民のみんなに病気の事と、ピアサポーターをもっと知って欲しい。
- ・グループホームや地域の首長、職員、大家さんなどとの会談
- ・作業所で利用者の方にピアサポーターとして接することができると思います。
- ・退院後に住みやすい社会にするために当事者の力がどうしても必要。その理解を広めることが結果的に多くの退院者を産むと思う。

<準備・工夫>

- ・話だけではなく、レクリエーションなども取り入れたい。
- ・ピア相談、ピアによる病院スタッフや家族などのために当事者の気持ちを話すこと。
- ・もっとパーソナライズな問題解決

<地域への障害の理解促進>

- ・地域の方に向けての精神障害への理解等

<その他>

- ・普及啓発
- ・地域の体制整備
- ・当事者同士のピアケア活動、職業化など
- ・ピアサポーター活動は個人でやればよいと思っているので、必要なものはないです。あるとしたら、生活訓練施設がほしいです。
- ・日常的な事ですが、まず世の中と溶け込んでいくことが大事だと思います。

第3章 考察

第3章 考察

I 入院患者アンケートまとめ

1 ご協力いただいた入院患者の傾向とピアサポーターの認知度

回答者の年代は、50代が最も多く、次いで40代、60代、70代の順となっており、40代から50代で半数を占めている。入院期間は、5年以上の方が最多（33.3%）であったが、1年未満（32.7%）も多かった。ピアサポーターの病院訪問の認知度は、「知っている」と回答した患者は全体では21%と低い割合であった。しかし、病院訪問実施の有無で比べると、病院訪問を実施した病院の入院患者の方の回答は36%であるのに対し、病院訪問を実施していない入院患者の方の回答は9%に留まっている。このことから、病院訪問を実施することでピアサポーターの認知度が上がることが明らかになった。

ピアサポーターの病院訪問をどこで知ったかという質問については、「病院」と回答した患者が80%を占め、「相談支援事業所」や「市町村窓口」、「保健福祉事務所」と回答した方はほとんど見られなかった。

2 ピアサポーターと病院訪問活動のニーズ

ピアサポーターの話を聞いてみたいかとの質問には、58%の入院患者の方が「聞いてみたい」と回答し、「聞きたくない」の10%を大きく上まった。聞きたい話については、「住まいのこと」（42%）、「生活費（お金）のこと」（41%）、「日中の過ごし方」（38%）、「食事のこと」（35%）という退院後すぐに必要となることを聞いてみたいという回答が多かった。

「聞きたくない」と回答した方の理由について確認をする質問では、「ピアサポーターのことが何だかよくわからない」、「よくわからない」等事業についての情報がないことで「聞きたくない」と回答していた患者の方もいた。このことは、ピアサポーターの活動内容や役割についての情報の有無がニーズに影響していることを示している。

3 退院への課題と意欲について

現在の退院についての意向については、49%の方が「退院したい」、18%が「できれば退院したい」と考えていることがわかった。一方、「退院後の生活を考えたとき不安を感じるか」の問いに、「とても不安」、「やや不安」を合わせて約半数の回答があったことから、退院の意向はあるものの、退院後の生活を考えたときに不安を感じていることがわかった。こうした入院患者の現状、特に退院後の生活を考え不安な気持ちを入院患者の半数が持っていることは、病院スタッフだけではなく、退院後の生活の場である地域の関係者が知っておくべきことである。今後もこうした患者の不安を少しでも

も減らすための病院訪問による情報提供は続けていくべきであると考えている。

また、退院にむけた準備について相談ができる人を尋ねた設問（複数回答）では、「病院スタッフ」と回答した方が最多で、次いで「家族」であった。病院訪問別では、病院訪問を実施した病院の入院患者の方が病院訪問を実施していない入院患者の方に比べ、相談先として家族を選択する方が少なかった。「保健福祉事務所」、「市町村窓口」、「相談支援事業所」を知っているという回答は、病院訪問を実施している入院患者の方が多くことから、病院訪問を実施することで、家族や病院スタッフ以外の相談先が増えていることがわかる。

そのほか退院に向け困っていることについては、「退院後の住まいが決まっていない」（26%）、「家族の同意が得られない」（25%）、「退院後の日中の過ごし方が決まっていない」（24%）という回答が多く見られた。これらの回答結果からは、困っていることについては、退院後の住まいや家族及び地域の受け入れ体制が十分に整っていないという現状があらためて明らかになったと言える。

4 退院までに必要なことがら

退院までに必要なことがらを具体的に記述していただいた回答をみると、ピアサポーターによる病院訪問を実施したことが有る病院では、「病気や治療」が18件あり、その他（個別の回答）が11件であった。それに対し、病院訪問を実施していない病院では、「病気や治療」は5件で、その他（個別の回答）が多く21件であった。

また、「病院訪問有」では、「退院後の生活を設計したい」「退院後の日中活動の事を考える」と具体的な記述が目立つのに対し、「病院訪問無」では、衣食住のこと等比較的漠然とした内容が目立った。

II 病院スタッフアンケートまとめ

1 病院スタッフの回答職種と事業の認知度

病院スタッフの回答者の内訳は、多い順に看護師（51%）、精神保健福祉士（20%）、その他の職種（18%）、医師（11%）の順であった。

「ピアサポーターによる病院訪問」の認知度は、「知っている」が56%、「知らなかった」の44%よりも多い回答となった。

病院訪問別では、訪問有の病院は、「ピアサポーターによる病院訪問」を知っているスタッフが78%。病院訪問無しの病院スタッフでも40%が「知っている」と回答していた。患者と同じく、病院訪問の実施をすることで認知度を高めることに繋がるほか、訪問を実施していない病院スタッフの一部においては、「ピアサポーターによる病院訪問事業」についての情報を持つ

ていることがわかった。

2 ピアサポーターによる病院訪問の必要性

今後の病院訪問の必要性については、「必要」が75%、「必要だと思わない」が2%とニーズの高さが伺えた。

病院訪問別では、病院訪問有の病院スタッフの93%が「必要」と回答し、病院訪問無しの病院スタッフも61%が「必要」と回答した。このことはピアサポーターによる訪問のニーズは高いと考えられる。また、職種別に比較しても、ピアサポーターの病院訪問について「必要」と回答した割合が高いため、今後もピアサポーターによる病院訪問は継続していくことが求められていると考察される。

3 ピアサポーターに聞きたいこと、訪問を受けての感想

病院スタッフがピアサポーターに聞いてみたいと回答した上位の選択肢は、「日中の過ごし方」(66%)、「地域で受けられる支援のこと」(64%)であった。入院患者の聞きたいことの上位であった「住まいのこと」、「生活費(お金)のこと」とは異なる回答結果となり、聞きたい内容について、病院スタッフと入院患者に違いがあることがわかった。

訪問頻度については、年に4回以上(42%)が最多の回答で、年間で複数回の訪問を求めていることがわかった。このことは、記述回答の「訪問するにあたっての工夫」、「今後の訪問効果を上げるための工夫」を聞いた質問でも、訪問頻度を年間に複数回求める回答があった。

話を聞いた感想も「とてもためになった」(54%)、「ためになった」(41%)を合わせると95%の回答であった。入院患者にとっての効果についても「退院後の生活がわかった」(50%)、「勇気づけられた」(49%)が上位の回答割合となった。このような回答からもピアサポーターによる病院訪問は、病院スタッフにとっても有効であることが明らかになった。

4 ピアサポーターによる病院訪問の効果をあげるために

「事業所と交流の場を持つ」、「質問事項を事前のまとめておく」といった事前の準備や、事業所との連絡の必要性があげられている。スタッフがピアサポーターの存在や事業について知らないことが多く、まず職員に向けた普及啓発が必要という意見が多く見られた。

III ピアサポーターアンケートまとめ

1 ピアサポーター活動状況

今回は、地域移行・地域定着支援事業委託事業所にピアサポーターとして

登録をし、かつ、病院訪問の実施経験のあるピアサポーターにアンケートにご協力いただいた。

ピアサポーターの登録年数は5年以上が33%で最多で、病院訪問回数も5回以上が最も多かった。現状は経験年数のあるピアサポーターが複数回の病院訪問を経験していた。

また、今後も病院訪問を続けたいと考えているピアサポーターも回答者の76%おり、ピアサポーターとしての活動を継続する希望者が多いことがわかった。

2 病院訪問時の聞いている相手の反応とニーズ

訪問をして入院患者の方が反応が良かった話題は、「生活費（お金）のこと」（57%）、「食事のこと」（43%）、「日中の過ごし方」（38%）、「病気や治療のこと」（38%）であり、退院後すぐに関係してくる話題に反応が良い。また、一番多い質問も「生活費（お金）のこと」（60%）が多いことがわかった。これに対してピアサポーターは、相手側の反応やニーズに対して、自身の体験を整理しながら、わかりやすい言葉を素直に話すということを中心に心がけて対応していることが、記述の回答からも明らかになった。

3 ピアサポーター自身が思うことと関係者への要望

ピアサポーターは、病院訪問活動をする前に、「入院患者が質問したいこと」、「今回の病院訪問活動の目的を」などの確認を希望している。実際、「予めA4用紙に内容をまとめて発表した」、「テーマを決めて実施する」などの工夫がなされていた。ニーズの把握のため、事前準備を怠らない様子が各所に伺えた。

病院訪問後の課題としては、「もっといろんなことを話したかった」や、「事前に質問を集めておけばよかった」等伝えきれなかったという思いが強い回答が多く見られた。このことは、受け入れ側の病院側にも要望として事前の打ち合わせや、実施後の振り返りをしっかりとやりたいとの回答が多かった。今後の病院訪問を実施する上で考慮しなければならない点である。

病院に配慮してほしいこととして、「目的についての確認」、「事前の打ち合わせ」、「ピアサポーターも当事者」などが挙げられていた。

事業全般における意見については、事業予算への要望や、ピアサポーターを多くの人に知ってほしい、体験発表の場を増やしてほしい等の意見が出された。自身が活動するための体制整備を求める意見が多く見られた。また、病院スタッフが知らなければ、この事業が必要な患者に伝わらないので病院スタッフに向けた研修・普及啓発の必要性が述べられていた。

今後は、病院訪問に関わるスタッフとともに、実施前の目的の共有と実施後の振り返りを充実させることが、効果的な病院訪問の鍵であると考えられる。

IV まとめ

今回の調査は、地域移行・地域定着支援事業で活動をしている、ピアサポーターの病院訪問活動の実施方法と成果について、入院中の入院患者及び病院スタッフ、病院訪問活動をしているピアサポーターにアンケート調査を行う形で実施をした。

結果は、認知度については、入院患者の認知度（21%）が低かったものの、病院スタッフは、半数以上（56%）がピアサポーターの病院訪問を知っていた。また、病院訪問の有無で見ると、訪問を実施した病院の入院患者の認知度は36%となっており、訪問を実施していない認知度が9%であるのに比較して27%高い結果であった。病院スタッフにおいても訪問を実施した場合は78%と高く、訪問を実施していない場合は40%に留まっていた。いずれも、病院訪問をすることで、ピアサポーターの認知度が大幅に上がり、その存在や活動を知ってもらう有効な手段であることがわかった。

病院訪問のニーズに関しても、「ピアサポーターの話を聞きたいですか」の質問に、入院患者の58%、病院スタッフの75%が必要と回答している。これは、活動ニーズがあることが明らかになったということであり、まだ病院訪問実施をしていない病院へのアプローチが可能であると考えられる。

この点では、病院スタッフの必要度が高かった調査結果から、訪問活動導入のアプローチは、病院スタッフ向けの病院訪問を実施することが有効ではないかと推察される。病院スタッフの理解を得ることにより、入院患者への波及効果も期待でき、更に効果的な実施になると考える。

このほか、入院患者への退院に向けた相談できる人を確認した質問に対し、病院訪問有群の回答では、病院スタッフと回答した方は変わらず多いものの、家族と回答した方が少なかった。一方、保健福祉事務所、市町村、相談支援事業所等の退院後の相談できる場所を知っていると回答した方は多かった。これらの結果から、ピアサポーターによる病院訪問が、入院患者に対し、有効な情報提供の手段のひとつであることも明らかになった。

活動の成果については、病院訪問ピアサポーターの話を実際に聞いた入院患者の73%、病院スタッフの95%が「とてもためになった」、「ためになった」と回答している。また、退院に向けた意欲についての変化を尋ねた質問では、入院患者の52%が、病院スタッフの53%が「退院に向けた意欲が高くなった」と回答している。これについては、訪問活動を実施しているピアサポーターにとって非常に励みになる結果である。

今後の精神保健福祉法改正施行や、それに伴う「良質かつ適切な精神障害者に対する医療の提供を確保するための指針」にも示されている、「再発を予防しながら地域社会の一員として安心して生活していく権利の享有」、「医療従事者と精神障害者の保健福祉に関する専門的知識を有する者との連携」という観点からも、今後も「ピアサポーターによる病院訪問活動」が、

病院と地域の関係機関が連携することにより、本人主体の本人に寄り添った活動となることを願うばかりである。

最後に、アンケートにご協力いただいた 医療機関に入院中の患者の皆さん、病院スタッフの皆さんとピアサポーターの皆さんに感謝をするとともに、今回の調査結果を地域移行・地域定着支援事業委託事業所及び登録ピアサポーター、精神科病院、保健福祉事務所や関係機関等に伝えることで、今後のピアサポーターによる病院訪問がより効果的な活動となり、精神障害者の地域移行・地域定着が推進されることを期待したい。

資料

I 調查票

II 參考資料

かながわけんせいしんしょうがいしゃちいきこう ちいきでいちやくしえんじぎょう
神奈川県精神障害者地域移行・地域定着支援事業におけるピアサポーター

びょういんほうもんかつどう かん ちょうさ きょうりょく ねが
による病院訪問活動に関する調査へのアンケートのご協力をお願い

このたび、かながわけんせいしんほけんふくし
神奈川県精神保健福祉センターでは、「ピアサポーターによる

びょういんほうもん どう ちょうさ
病院訪問」等について調査をさせていただくことになりました。

こんご かつどう うえ さんこう おも きょうりょく
今後の活動を行う上で参考にさせていただきたいと思っておりますので、ご協力

をよろしくお願いいたします。

※ピアサポーターとは、ちいきこう ちいきでいちやくしえんじぎょう なかま
地域移行・地域定着支援事業において、仲間として、

ちいき せいかつ つた やくわり せいしんしょうがいたうじしゃ
地域での生活を伝える役割のある精神障害当事者。

※「ピアサポーターによる病院訪問」とは、びょういんほうもん そうだんしえん
ピアサポーターによる病院訪問とは、ピアサポーターと相談支援

じぎょうしょ せいしんかびょういん にゅういんちゅう たいいん む じゅんびどう まちか かんじゃ かつ
事業所が、精神科病院に入院中で退院に向けた準備等が間近な患者の方

と、びょういん たいしょう ちいき せいかつ つた もくてき せいしんか
と、病院スタッフを対象に地域での生活を伝えることを目的に精神科

びょういん ほうもん
病院を訪問すること。

なお、ちょうさ なまえ か ひつよう
調査ではお名前を書く必要はありません。

こじん かいとうけっか こじん とくてい
個人ごとの回答結果をみることはいたしませんので、個人が特定できるよう

なことはなく、あなたにご迷惑をおかけすることは一切ございません。

また、このちょうさ かいとう きょうせい かり かいとう
調査への回答は強制するものではなく、仮に回答されなくても

それによりあなたがふりあつかう
不利な扱いを受けることはありません。

へいせい ねん がつ 日にち
平成 年 月 日

アンケートの記入^{きにゆう}について

- 1 あてはまるものに○をつけて下さい。
- 2 「以下^{いか}にお書き^{おかき}ください。」という設問^{せつもん}は、具体的^{ぐたいてき}に記入^{きにゆう}してください。
- 3 それぞれのページの一番右^{いちばんみぎ}にある には、記入^{きにゆう}する必要^{ひつよう}はありません。
- 4 記入^{きにゆう}が終わ^{おわ}ったら、アンケート用紙^{ようし}を回収^{かいしゅう}担当^{たんとう}の人にわた^{ひと}してください。

ご協力^{きょうりょく}よろしく願^{ねが}いいたします。

病院記号

1 あなたの年齢についてあてはまる番号に○をつけてください。

| | | | | | | | | | |
|---|-----|---|-------|---|-----|---|-----|---|-----|
| 1 | 10代 | 2 | 20代 | 3 | 30代 | 4 | 40代 | 5 | 50代 |
| 6 | 60代 | 7 | 70代以上 | | | | | | |

2 あなたの入院期間はどれにあたりますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

| | | | | | |
|---|------|---|----------|---|----------|
| 1 | 1年未満 | 2 | 1年以上3年未満 | 3 | 3年以上5年未満 |
| 4 | 5年以上 | | | | |

3 あなたは、ピアサポーターによる病院訪問を知っていますか。あてはまる番号に○をつけてください。

| | | | | | |
|---|-------|---|--------|---|------|
| 1 | 知っている | 2 | 知らなかった | → | 5. ~ |
|---|-------|---|--------|---|------|

4 3で「1知っている」と答えた方にうかがいます。

ピアサポーターのことをどこで知りましたか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

| | | | | | | | |
|---|---------|---|----------|---|-------|---|----|
| 1 | 病院 | 2 | 相談支援事業所 | 3 | 市町村窓口 | 4 | 家族 |
| 5 | 保健福祉事務所 | 6 | 県のホームページ | | | | |
| 7 | その他 () | | | | | | |

裏面に続く

- 5 あなたは、ピアサポーターの話を聞きたいですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

| | |
|---------------------------------------|--|
| 1 聞いてみたい | 2 聞きたくない → <input type="checkbox"/> 7へ |
| 3 わからない → <input type="checkbox"/> 8へ | |

- 6 5で「1 聞いてみたい」と答えた方にうかがいます。内容について、

あなたは、どのようなことが聞きたいですか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

| |
|--|
| |
| |
| |

| | | |
|-----------------|------------|-----------|
| 1 住まいのこと | 2 食事のこと | 3 日中の過ごし方 |
| 4 仲間のこと | 5 家族のこと | 6 仕事のこと |
| 7 地域で受けられる支援のこと | 8 病気や治療のこと | |
| 9 生活費（お金）のこと | 10 その他（ | ） |

- 7 5で「2 聞きたくない」と答えた方にうかがいます。

その理由があれば、以下にお書きください。

- 13 退院までに必要なことがらについて、あなたが考えていることを具体的にあげてください。

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • • • |
|---|

「ピアサポーターによる病院訪問」を実施していない病院の患者の方への質問は以上となります。ご協力大変ありがとうございました。

なお、ピアサポーターの病院訪問においてピアサポーターの話聞いた

ことのある患者の方は引き続き、以下の質問にご回答願います。

- 14 あなたがピアサポーターの話聞いた感想で、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

| |
|--|
| |
|--|

| | |
|--------------|-------------|
| 1 とても、ためになった | 2 ためになった |
| 3 ためにならなかった | 4 どちらとも言えない |

- 15 ピアサポーターの話聞いて、あなたにとって、効果があったと思われることは何ですか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

| | |
|---------------------|-----------|
| 1 退院後の生活がわかった | |
| 2 退院までに必要な準備などがわかった | |
| 3 退院したい気持ちが高まった | 4 不安が減った |
| 5 勇気づけられた | 6 その他 () |
| 7 特にない | |

残りあと1問です

16 あなたは、ピアサポーターの話^{はなし きい}を聞いた後^{あと}、退院^{たいいん む}に向けての意欲^{いよく}が変化^{へんか}しましたか。あてはまる番号^{ばんごう}に1つだけ○をつけてください。

- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1 | 退院 ^{たいいん む} に向けた意欲 ^{いよく} が高 ^{たか} くなった | 2 | 話 ^{はなし} を聞く前 ^{まえ} とかわらない |
| 3 | 話 ^{はなし} を聞く前 ^{まえ} より意欲 ^{いよく} が下 ^{さが} がった | | |

お疲れ^{つか}さまでした。これでアンケートは全て^{すべ}終了^{しゅうりょう}です。ご協力^{きょうりょく}大変^{たいへん}ありがとうございました。

神奈川県精神障害者地域移行・地域定着支援事業におけるピアサポーターによる病院訪問活動に関する調査アンケートのご協力をお願い

このたび、神奈川県精神保健福祉センターでは、「ピアサポーターによる病院訪問」等について調査をさせていただくことになりました。

今後の活動を行う上で参考にさせていただきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

※ピアサポーターとは、地域移行・地域定着支援事業において、仲間として、地域での生活を伝える役割のある精神障害当事者。

※「ピアサポーターによる病院訪問」とは、ピアサポーターと相談支援事業所が、精神科病院に入院中で退院に向けた準備等が間近な患者の方と、病院スタッフを対象に地域での生活を伝えることを目的に精神科病院を訪問することです。

なお、調査ではお名前を書かれる必要はありません。
個人ごとの回答結果をみることはいたしませんので、個人が特定できるようなことはなく、あなたにご迷惑をおかけすることは一切ございません。

平成 年 月 日

神奈川県精神保健福祉センター

アンケートの記入について

- 1 あてはまるものに○をつけて下さい。
- 2 「以下にお書きください。」という設問は、具体的に記入してください。
- 3 それぞれのページの一番右にある には、記入する必要はありません。
- 4 記入が終わったら、アンケート用紙を担当の人にわたしてください。

ご協力よろしくお願ひいたします。

病院スタッフ

病院記号

- 1 あなたの職種はどれにあたりますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1 医師 2 看護師 3 精神保健福祉士 4 その他 ()

- 2 あなたは、「ピアサポーターによる病院訪問」を知っていますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1 知っている 2 知らなかった→5へ

- 3 2で「1知っている」と答えた方にうかがいます。
ピアサポーターのことをどこで知りましたか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1 病院 2 相談支援事業所 3 市町村窓口 4 家族
5 保健福祉事務所 6 県のホームページ
7 その他 ()

- 4 あなたは、「ピアサポーターによる病院訪問」を活用したいときの連絡先を知っていますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1 知っていた 2 知らなかった

- 5 あなたは、今後患者の方の退院に向けた関わりにおいて、「ピアサポーターによる病院訪問」が必要だと思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1 必要 2 必要だと思わない→8へ 3 わからない→9へ

- 6 5で「1必要」と答えた方にうかがいます。あなたはどのようなことが聞きたいですか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

1 住まいのこと 2 食事のこと 3 日中の過ごし方
4 仲間のこと 5 家族のこと 6 仕事のこと
7 地域で受けられる*支援のこと 8 病気や治療のこと
9 生活費（お金）のこと
10 その他 ()

*支援とは、自宅で食事の介助等を行うホームヘルプや、地域で仲間との交流を行う地域活動支援センター等を指します。

裏面へ続く

- 7 5で「1必要」と答えた方にうかがいます。ピアサポーターによる訪問回数は、年に何回くらい必要だと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1 1回 2 2回 3 3回 4 4回以上

- 8 5で「2必要だと思わない」と答えた方にうかがいます。その理由について以下にお書きください。

- 9 「ピアサポーターによる病院訪問」を実施するにあたって工夫したこと、または課題がありましたら以下にお書きください。

- 10 退院支援をするうえで、あなたが、取り組んでいることを以下にお書きください。

「ピアサポーターによる病院訪問」を実施していない病院スタッフの方への質問は以上となります。ご協力大変ありがとうございました。 **なお、ピアサポーターの病院訪問においてピアサポーターの話を聞いたことのあるスタッフの方は引き続き、以下の質問にご回答願います。**

- 11 あなたがピアサポーターの話を聞いた感想で、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|-----------------|-------------|
| 1 とても、ためになった | 2 ためになった |
| 3 ためにならなかった→13へ | 4 どちらとも言えない |

- 12 11で「1とても、ためになった」、「2ためになった」と答えた方にうかがいます。どのような話がためになりましたか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

- | | | |
|-----------------|------------|-----------|
| 1 住まいのこと | 2 食事のこと | 3 日中の過ごし方 |
| 4 仲間のこと | 5 家族のこと | 6 仕事のこと |
| 7 地域で受けられる支援のこと | 8 病気や治療のこと | |
| 9 生活費（お金）のこと | | |
| 10 その他（ | | ） |

- 13 ピアサポーターによる病院訪問の効果をあげるためには、どんな工夫が必要だと思いますか。あなたが必要だと思われることを以下にお書きください。

- 14 ピアサポーターの話を聞いて、あなたが、入院患者の方にとって効果があったと思われた点は何ですか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

- | | |
|---------------------|---|
| 1 退院後の生活がわかった | |
| 2 退院までに必要な準備などがわかった | |
| 3 退院したい気持ちが高まった | |
| 4 不安が減った | |
| 5 勇気づけられた | |
| 6 その他（ | ） |
| 7 特にない | |

- 15 ピアサポーターの話を聞いた後の入院患者の方の意欲の変化について、あなたは、どのように感じましたか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|------------------|---------------|
| 1 退院に向けた意欲が高くなった | 2 話を聞く前と変わらない |
| 3 話を聞く前より意欲が下がった | |

- 16 その他ご意見があれば以下にお書きください。

これでアンケートは全て終了です。お忙しい中、ご協力大変ありがとうございました。

神奈川県精神障害者地域移行・地域定着支援事業におけるピアサポーターによる病院訪問活動に関する調査アンケートへのご協力をお願い

このたび、神奈川県精神保健福祉センターでは、地域移行・地域定着支援事業委託事業所登録のピアサポーターと、委託事業所所管の精神科病院入院中の患者及びスタッフを対象に「ピアサポーターによる病院訪問」等について調査をさせていただくことになりました。

今後のピアサポーターによる病院訪問活動を実施する上で参考にさせていただきたいと思いますので、ご協力をよろしく申し上げます。

なお、調査票にお名前を書かれる必要はありません。

個人ごとの回答結果をみることはいたしませんので、個人が特定できるようなことはなく、あなたにご迷惑をおかけするようなことは一切ございません。

平成 年 月 日

神奈川県精神保健福祉センター

アンケートの記入について

- 1 あてはまるものに○をつけて下さい。
- 2 () の中には具体的に記入してください。
- 3 それぞれのページの一番右にある には、記入する必要はありません。
- 4 記入が終わったら、アンケート用紙を回収担当の人にわたしてください。

ご協力よろしく願いいたします。

あなたがピアサポーター登録をしている事業所名
()

あなたのことについておうかがいします。

1 ピアサポーターとして登録をしてから何年何ヶ月経過しましたか。

年 ヶ月

2 登録をしてから病院訪問は何回いきましたか。

回

3 今後の病院訪問についてあなたの考えに近い番号に○をつけてください。

1 続けたい 2 続けたくない 3 どちらとも言えない

4 あなたが病院訪問をして一番達成できたと思うことは何ですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1 地域サービス等の情報提供をした
2 病院スタッフへの地域生活の実際を伝えた
3 入院患者の退院への思いを高めた
4 病気との付き合い方を伝えた
5 その他 ()

5 あなたが病院訪問をしたときに、聞いている相手の反応が良かった話題について、あてはまる番号3つに○をつけてください。

1 住まいのこと 2 食事のこと 3 日中の過ごし方
4 仲間のこと 5 家族のこと 6 仕事のこと
7 地域で受けられる支援のこと 8 病気や治療のこと
9 生活費(お金)のこと
10 その他 ()

6 あなたが病院訪問した時に、話を聞いた入院患者の方から質問がありましたか。あてはまる番号に○をつけてください。

1 質問があった 2 質問はなかった → 8へ

裏面へ続く

- 7 6で「1 質問があった」と回答した方にお尋ねします。質問はどのような内容でしたか。あてはまる番号3つに○をつけてください。

| | | |
|------------------|------------|-----------|
| 1 住まいのこと | 2 食事のこと | 3 日中の過ごし方 |
| 4 仲間のこと | 5 家族のこと | 6 仕事のこと |
| 7 地域で受けられる*支援のこと | 8 病気や治療のこと | |
| 9 生活費（お金）のこと | | |
| 10 その他（ ） | | |

| |
|--|
| |
| |
| |

- 8 体験発表をしてあなた自身が思うことを、以下にお書きください。
良かったこと、工夫したこと

| |
|--|
| |
|--|

もっとこうすれば良かったこと

| |
|--|
| |
|--|

- 9 訪問を受け入れる病院にお願いしたいこと、配慮して欲しいことがありましたら以下にお書きください。

| |
|--|
| |
|--|

- 10 その他、地域移行・地域定着支援事業全般に関するご意見を自由にお書きください。

| |
|--|
| |
|--|

- 11 あなたは、「ピアサポーターによる病院訪問」以外にピアサポーターの活動をする必要があると思いますか。

1 必要

2 必要ない

- 12 現在、あなたが、「ピアサポーターによる病院訪問」以外に取り組んでいる、ピアサポーター活動がありましたら、以下に自由にお書きください。

- 13 「ピアサポーターによる病院訪問」以外で、あなたが、今後必要と思われるピアサポーター活動は何ですか。以下に自由にお書き下さい。

お疲れさまでした。これでアンケートは全て終了です。ご協力ありがとうございました。

Ⅱ 参考資料

- 神奈川県精神保健福祉センター平成 15 年度調査研究報告書「長期入院中の精神障害者の状況と社会復帰に向けての課題」
- 2011 年小平市地域自立支援協議会 地域移行アンケート調査報告書
- 古屋 龍太 (2012) 長期在院精神障害者の地域移行支援－病院と地域の実践から－
- 精神保健福祉白書編集委員会 精神保健福祉白書 2013 年版 (障害者総合支援法の施行と障害者施策の行方)

平成 25 年度神奈川県精神保健福祉センター調査研究事業報告書

発行日 平成 26 年 3 月

発行 神奈川県精神保健福祉センター

〒233-0006 神奈川県横浜市港南区芹が谷 2-5-2

電話 045-821-8822